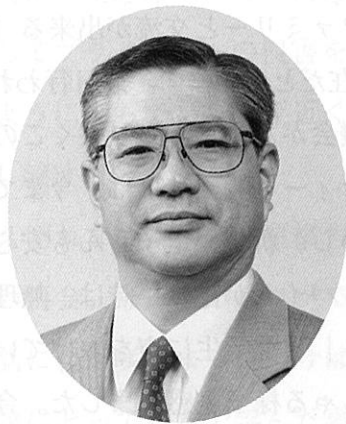


第1回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会」事務局 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株)サクラクレパス内
TEL:(06)6910-8800 FAX:(06)6910-8837

2004年3月発行

ごあいさつ



留学生さとおやの会

代表 西村 貞一

第1回留学生さとおやの会里親・里子対面の会、関西国際学友会のご協力を得ての新年交流会を、それぞれ盛大に開催できました事を大変嬉しく思っております。大阪商工会議所の留学生事業を継承してスタートしました本会ですが、皆様のお力添えのお陰で、ようやく1年を無事経過することができました。大阪商工会議所留学生委員会の行事は、全て大阪商工会議所のスタッフが中心に、準備から当日の進行まで進めて頂いておりましたので、始めは何から手をつけたら良いのか？何も分からず、どうなることやと前途多難、暗澹たる気持ちでございました。しかし、幹事や大商の方々、皆様のご協力の中、たくさんの里親さん、里子さんにお集まり頂き、共に手作りの暖かい会を開催することができました。

今後も、このように心の繋がりを大切に、里親さん、里子さんたちとの交流の一助となる活動ができれば幸いです。これら事業が日本と外国と架け橋になり、心の繋がったより良い国際交流が出来る事を願っています。

お世話になりました皆様はこの場を借りまして、厚くお礼申し上げます。
ありがとうございました。

里親・里子対面式 感想文

大阪YMCA国際専門学校

亀井 理恵子

本校では、約200名の留学生が日本語を学んでいます。

中でも多いのは、中国からの留学生。彼らのほとんどは、初めてパスポートを申請して日本へやって来ます。『初の海外＝日本での留学生活』なのです。言葉も十分に分からず、文化・習慣の違う国で暮らしていると、不安なことも多いはず。国の家族を思い出し、たまらなく寂しい気持ちになることもあるでしょう。そんな彼らにとって、日本人ファミリーと交流が出来る『留学生とおやの会』の活動は、心のより所となり、大変励まされる存在だと思います。過日行われた「里親・里子の対面式」会場では、何名かの里親さんとお話をする機会がありました。長くこの活動を続けていらっしゃる方が多く、「遊びに行ったり、ホームパーティーを開く時には、今まで引き受けた里子たちにも声をかけるんですよ。人数が多いほうが楽しいし、新しい里子さんも安心して参加できるでしょ」とおっしゃっていた里親さんや、「勉強やアルバイトが忙しい時は、無理しないでいいんだよ。自分の時間がある時に会えばいいんだから・・・」と留学生に声をかけていた里親さんなど、互いに負担にならない、いい距離感で接していらっしゃる様子を感じました。今回の出会いが細く長く続き、里親・里子の双方にとって実りのある、温かい交流が育まれていくことを願っております。

こま
ふれあい独楽

私達、メセナボランティアGroupふれあい独楽^{こま}staff(寝屋川市)は、来る9月27日“留学生里親・里子対面の会”に、橋本、浜田、山田の3名で出席させて頂きました。中国の李曉留さん、馬祥佳さん、台湾の洪正光さんとの出会いができ、色々楽しくお話が出来ました。日本語がとてもお上手なのには、感動いたしました。

歴史も文化も違う日本で勉学に励む方々と、これからも国際交流をはかって行きたいと思います。

洪 正 光

今回、里親・里子の会が主催したイベントに参加できることはとても光栄です。今回のイベントを通じて得たことは国の家族とはなれて、ただ一人で異国で留学生活を送る私達にとっては、ひとつ日本の文化や習慣を身につけられることであって、しかも里親から受けた温かい人情には本当に感謝の至りです。これからもずっとずっとこの有意義なイベントが日本と世界各国の架け橋として、続いてほしいです。

「出会って何て素晴らしいでしょう！」 太田 百合子

私達家族が右も左もわからないアトランタ空港に降り立ったのは今から25年も前のことでした。大きな体に大きな車のホストファミリーの出迎えを受け、大きな大きなハイウェイを走ると「ああー、アメリカについにやって来た！」と身をもって感じました。ホストファミリーは私達のアメリカでの新しい生活のスタートのため連日アパート、車、家具の購入、その他の事で走り回ってくれました。私達の生活が軌道に乗ると、こちらから連絡しないかぎりほとんど何も連絡はありませんでした。プライバシーの尊重なのか、私達にはとてもありがたい事でした。でも何か困った時は本当に一生懸命助けていただきました。とにかく日本人、特に大阪人はおせっかいをやき過ぎ、時としてプライバシーの侵害をしかねない事もあるようです。帰国後里親として留学生を迎え入れるようになってから20年近くなりますが、今もアメリカで学んだホストファミリーのあり方を実践し続けています。

今まで数え切れない留学生、研修生、トラベラーとの出会いがありました。時には彼らとの祖国での楽しい再会。最近もバンコクで数年前の研修生と再会。奥さんやフィアンセを紹介され楽しい思いで話に花が咲きました。今は現地の日系企業で日本で学んだ技術を生かし、がんばっています。私達にとって日本で学んだ事を、自国に帰り自国の発展のために生かしてくれるのが一番の喜びでした。又今北京に戻り日本企業の支店長をしている彼は日本人のすてきな奥さん、子供に恵まれ幸せな家庭を築いていますが、この冬はSARSで日本人学校が休校になって子供は外出できずパニック。SOS！早速退屈しのぎのゲーム、塗り絵、キャラクターグッズ等々送りました。大喜びのメールを受け取り私はもっともっと大喜びでした。

時は流れました。一昔前までは発展途上国と言われたアジアの近隣諸国も今や世界のリーダー国となりつつあります。事実私自身留学生から色々学ぶ事のほうが多い今日このごろです。我が子は皆独立し、それぞれの家庭を持ち親元を離れましたが毎年のように新しい子供を迎えられるのは本当に素晴らしいことです。今年も二人の新しい留学生がやってきました。先日も我が家に元留学生も招いて一緒にお庭でバーベキューを楽しみました。今年の留学生の一人は飲むのがかなり好きみたいで、主人は飲み友達ができたと大喜びでした。二人とも日本に来て4年になるので日本語もとても上手で私達以上に日本を、とりわけ若者の世界を良く知っています。色々教えてもらいおじさん、おばさん遅れいるーと実感しました。あまりに話が弾み、写真を撮るのを全く忘れてしまいました。これからも多くの留学生に囲まれ、続く限り楽しい国際交流のボランティアをやっていきたいと思っています。留学生からボランティアされているのかも？



さとおやの会の対面式に行く前の日、とても緊張していました。お母さんについて行ったことはあるけど、お母さんと2人だけで行ってお母さんが途中で帰って、一人で対面式に出るのは初めてだった。電車で、行く途中だんだん緊張が増して行って、駅についた頃には、あまりに緊張して家に帰りたかった。けど帰れない



ことを知っていたので、余計に帰りたくなった。商工会議所について、会場に行くと誰もいなくて一瞬とても喜んだけど「さとおやの会対面式会場」というものを見て喜びが消えました。お母さんが、「地下に行くとなにかいるかもしれない。」っていったのでいってみると、お母さんの知り合いの人がいたので、お母さんはその人に、僕を預けて、すぐ妹の運動会を見に帰ってしまいました。その時、頭が真っ白になった。その後知り合いの人と、会場に行くと何人か人が来ていて、時間が経つにつれて人の数が増えていった。そして、お母さんが司会の人に渡しやっという手紙のことを思い出したので、司会の人を探して、手紙を渡した。そして、対面式が始まり緊張度が最高に達した。また頭が真っ白になった。そして、「続きましては、田仲八重子さんですが急用で来られなくなったので、代わりに息子さんの田仲亮君です。」ていったとき、とても恥ずかしくなった。前に出ると司会の人が「里親と言うより里弟ですね。」と言ったので、皆笑っていたので、余計に恥ずかしくなった。里子の方が、お姉さんみたいですね。いろいろ言ってたけど、頭が真っ白状態だったので良くわからなかった。その後、里子さんと一緒にお話して、時間になったので、里子さんと高槻に行って、皆でご飯を食べた。10時ぐらいになって、里子さんが帰らないといけないので、お母さんと一緒に送って行きました。

とても緊張したけど、いい体験が出来ました。こんな経験をさせてくれたお母さんに感謝したいです。あといろいろ教えてくれたりした皆さんありがとうございました。

さとおやの会については、里子さんと会うと兄弟が増えた気がするのでさとおやの会がずっと続くと、僕の兄弟が増えるのでこれからもずっと続けてください。

2003年9月27日

留学生里親・里子対面式



留学生さとおやの会新年交流会 感想文

松澤政彦

2004年1月12日「留学生さとおやの会新年交流会」のアトラクションで私は人様の前でハーモニカを演奏いたしました。正直言いまして数えるほどしかありません。ハーモニカは自分自身で楽しむ程度でしたが、皆様方にお聞き苦しいかっただのではと恥ずかしく思っております。飛び入りで田間さんがハーモニカを買ってきて演奏していただいたので、大変盛り上がりましたですね。

私は自宅の向かいに住んでいる田中悠里さんをお誘いしました。この方は中国から日本にお嫁入りされた方で、私事ですが、声楽家の息子が織島さんの企画でNHK大阪ホールでの中国のオーケストラとの演奏会で中国の歌を歌うのに中国語の指導をしていただきました関係で、招待したのですがその時に唐沢先生とは師弟の間柄であることがわかり驚きました。その悠里さんが中国の留学生と一緒に来られまして、自己紹介の時私が急遽里親になったようなことで新しい里子が出来ましたが、次回の里親里子の対面の会には正式に縁結びをお願いしようと思っております。

交流会の進行係をお願いしました、織島さんは本当に驚くほどうまくすすめていただき、お料理や、テーブルの飾り付け、留学生にプレゼントするお雛様など、心こまやかな気配りをしていただき感謝でいっぱいでございます。また会員の皆様方が結集するとなんでもできるものですねと感慨ひとしおです。

この交流会のように「留学生さとおやの会」が今後も楽しい集いでありますように、そして西村代表幹事のもとで私微力ながら少しでも国際交流に貢献できればと頑張りたいと思っております。



新年交流会に参加して

劉東

日本での留学生活はとても充実しています。特にいろいろなプログラムに参加して経験を積むことが大好きです。

1月12日、里親さんに誘っていただいて関西国際学友会で行われたパーティーに、参加しました。中国にいた時、餃子を作ったことはなかったですが、他の中国人の留学生と一緒に初めて餃子作りを体験しました。皆に食べてもらってとても楽しかったです。その後、皆と一緒に食べながらたくさん新しい人と知り合いました。他の里親さんとか大学生などと様々な話をしました。その中のインドネシアから来た留学生と知り合いで今でもよく連絡しています。日本人とあまり変わらない日本語を話す彼に大学のことを色々教えてもらいました。もうすぐ、大学に行く私にとってとても助かりました。

パーティーに行って良かったと思います。もし、またこのような催しがあれば是非誘っていただきたいと思います。誠にありがとうございました。


2004年1月12日

留学生さとおやの会 新年交流会



2003年11月2日・3日、
大阪国際交流センターにて
ワン・ワールド・フェスティバルが
開催されました。

見て、聞いて、体験して、理解する、国際協力のお祭り
ONE WORLD FESTIVAL
ワン・ワールド・フェスティバル



21世紀に生きる世界をいかに広げて
わたしたちがかまわなければならないか

開催日時 2003年11月2日(日)・3日(月・祝) 10時~17時
開催場所 大阪国際交流センター (地下鉄谷町線千船駅) (地下鉄谷町線千船駅下車)
入場無料

ワン・ワールド・フェスティバル/国際協力ひろは特別シンポジウム
手をつなごう
共に生きる世界をつくるために

とき 2003年11月3日(祝)
午後2時30分~4時30分

ところ 大阪国際交流センター
大ホール(大阪市天王寺区上本町18-2-6)

パネリスト

- 池上 清子さん (LIFPA国際人口基金(東京事務所) 代表)
- 黒川 千万壽さん (シブレット・プラットフォーム事務局 代表)
- 本間 正明さん (大阪大学大学院経済学研究科教授)
- 塩 雅晴 (関西新聞大阪本社編集委員)

コーディネーター

9.11の世界同時テロ、原発と学教が絡み合うコンプレックス。未だ光の見えないアフガニスタン、イランの戦後復興など、国際社会は迷途を歩み、難民、貧困、環境破壊など地球規模の課題はますます深刻になっていきました。早くも、貧困と豊かさ一対峙する事態に陥っています。いかにして解決するか？ 国家(政府)、国際機関、NPO/NGO、企業、経済団体などさまざまな団体がこつこつと取り組んでいますが、今日の地球が抱える課題は各団体の取り組みだけで解決できるものではありません。これからの社会には、それぞれの特色を生かして、手をつなごう。これからのシステムづくりが求められています。世界の中のすべての人々が人間的に生きていける社会をつくるために、地球市民の一員として私たちは何をすべきか。また、何ができるのか。さまざまな立場で活動するパネリストを迎え、一緒に考えたいと思います。

定員 1,000名(先着順)
※申し込みが必要です。方法は要項をご覧ください。

ホームページ
<http://www.yomiuri.co.jp/osaka-event/>

入場無料



● 編集後記 ●

編集局長 田間 貞雄

平成15年の初めに、大阪商工会議所の留学生事業を継承してから第1回の留学生と里親の会の便りを発行させていただきました。これは、西村会長を始め里親の方、里子の皆様からの素晴らしい原稿をお寄せいただきましたおかげでございます。有難うございました。

編集をしておりますと、当会の立ち上げから対面の会、そして今年の新年会、その間に数度の幹事会、やっと軌道にのりかけた嬉しさを含めまして、12月初めに幹事の方々の忘年会の名の下に、反省会なども行うことができました。そして正月明けに、会場は関西国際学友会のご好意で、ほとんどが皆様の手作りによる新年会が盛大の内に開催されましたことなどが思い浮かべられます。

今年からは、里親の会の、里親・里子だよりを少なくとも、年に3回以上は発行したいと考えておりますので、里親、里子さんの活動や思い出、そして日常の出来事など、どんな事でも原稿にしてお送りいただきたく、編集局からお願いいたします。